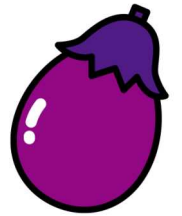


# ナスビの学校



## 立ち止まって考える機会に……

# 今週は「いのちの教育週間」です!!

## 「並々ならぬ努力」が必要です

宮崎県では、毎年7月第一週を「いのちの教育週間」に設定しています。この一週間は、宮崎で生きているみんなが、様々な視点から「いのち」について考え合う期間です。

宮崎大学教育学部附属中学校でも、2年前からこの「いのちの教育週間」に合わせて「命を考える集会」を行っています。昨年度はPTA読み語りサークルの協力を得ながら、全校生徒で命について考える時間を過ごしました。

宮大附属中には「集会」だけでなく、命について考える機会を様々な場面で設定しています。そのなかで、全校生徒に強く関わるものがあります。それは「交通安全」に関する時間です。学校では年度初めに「交通安全指導」を、夏休みに入る前までに「交通安全教室」を開催し、交通安全への意識啓発に取り組んでいます。

しかしながら、登下校時の事故や交通ルール・マナー違反が起こっていることも事実です。事故のなかには、自分が十分に気を付けていても起こってしまったものも、もちろんあります。しかし、「もうちょっと慎重に自転車を運転していたら……」「もう少し時間に余裕をもって家を出ていたら……」と思うものも少なくありません。安全に登校すること、安全に帰宅することは当然のこのように感じています。しかし、実は「並々ならぬ努力」が必要な行為であるのです。私たちが「安全確認をしよう」「交通ルールを守ろう」「並進をしないようにしよう」「ヘルメットを着用しよう」と何度も伝えているのはそのためです。

交通安全については、学校だけでなく、社会全体の問題として位置付けられています。昨今、ニュースや新聞等のメディアで話題になっている「あおり運転」や「ながら運転」はその典型例でしょう。このような交通違反が社会全体で話題になると、ある動きが生まれます。それは「法律の制定や厳罰化」という動きです。実際に「あおり運転」や「ながら運転」については罰則が強化されました。そして最近では、自転車による「あおり運転」までもが罰則の対象となっています。この一連の流れを整理すると、次のようになります。①「これは問題だよね」とみんなが思い始め、言葉にするようになる。②その言葉をキャッチして、問題を解決しようとする動きが起こり始める。③法律を制定したり、罰則を強化したりすることによって問題の解決を図ろうとする。④人々の問題行動が減少していく。

## どんな社会をつくりたい？

交通安全については、学校だけでなく、社会全体の問題として位置付けられています。昨今、ニュースや新聞等のメディアで話題になっている「あおり運転」や「ながら運転」はその典型例でしょう。このような交通違反が社会全体で話題になると、ある動きが生まれます。それは「法律の制定や厳罰化」という動きです。実際に「あおり運転」や「ながら運転」については罰則が強化されました。そして最近では、自転車による「あおり運転」までもが罰則の対象となっています。この一連の流れを整理すると、次のようになります。①「これは問題だよね」とみんなが思い始め、言葉にするようになる。②その言葉をキャッチして、問題を解決しようとする動きが起こり始める。③法律を制定したり、罰則を強化したりすることによって問題の解決を図ろうとする。④人々の問題行動が減少していく。



この一連の流れは、私たちに「どんな社会をつくりたいか?」と問いかけています。一人一人が交通ルールを守り、マナーを大切にしていれば、罰則が設けられたり、強化されたりすることはないでしょう。登下校時の自転車運転についても同じことが言えます。最近、自転車通学のルールを守れていない状況が続いています。このような状況が続くと、どうなっていくでしょうか。想像力を働かせてみましょう。登下校時の自転車通学についても「どんな社会をつくりたい?」そして「どんな学校をつくりたい?」という問いが私たちに向けられているのです。

## ウイルスとともに生きる方法

宮大附属中では、今年度の「いのちの教育週間」にあわせて「ウイルスとともに生きる方法を考える」私たちのSDGs」を実施します。

昨年度末から、学校は新型コロナウイルスへの対応に追われてきました。臨時休校が開けたあとも、分散型授業を経て、ようやく学校が再開しました(1年生にとってはスタートしました)。

学校再開後は、できる限りの感染対策をとりながら授業や活動をしています。緊急事態宣言も解除され、宮崎県でも感染者が出ていない状況が続いているため、どうしても気を抜いてしまいがちです。しかし、第2波、第3波が不安視されているように、いつ感染が起ころうとおかしくない状況はこれからも続くと思われるます。

そして、私たちは毎年インフルエンザと付き合っているかなければならないように、新型コロナウィルスとも付き合っていかなければならないでしょう。私たちには「ウイルスとともに生きる方法」を身につけることが求められているのではないのでしょうか。

宮大附属中では「ウイルスとともに生きる方法」を全校生徒で考え、実行に移していく活動を計画しています。全校生徒の力を合わせることで、新たな学校生活をつくっていきたいと考えています。この活動を通して、中学校生活はもちろん、中学校を卒業したあとも役立つことができる「生き方」を体得していったらいいと思っております。

保護者のみなさま、毎朝の検温と体調確認に御協力いただき、本当にありがとうございます。これからも継続してまいります。よろしくお願いたします。

